藤田学園同窓会機関誌　34号

あけぼの杉

藤田学園同窓会

住　所　豊明市沓掛町田楽ケ窪
1番地98
発行人　藤田学園同窓会
機関誌委員会
発行日　平成26年12月1日

新病棟建設（2014年11月10日現在）

目 次

P. 2～3　藤田学園同窓会会長ご挨拶
P. 4～5　学校法人藤田学園理事長ご挨拶
P. 6　藤田保健衛生大学学長ご挨拶
P. 7　藤田保健衛生大学病院病院長ご挨拶
P. 8　就任のご挨拶
P. 9　新教授のご紹介
P. 9～10　恩師からのお便り
P. 11～13　同窓会員の活躍
P. 14～16　同窓会を開催して
P. 16　2014年国家試験合格率
P. 17　いこいの広場コンサート
P. 18～19　同窓会各部会お知らせ
P. 19　学園祭報告
P. 20～23　同窓会総会報告
P. 24　2015年度入学試験スケジュール

藤田学園創立50周年記念行事に参加して

藤田学園同窓会
会長
近松 均

平成26年10月11日夕刻、藤田学園創立50周年記念式典ならびにアセンブリ講演会に引き続き、藤田学園と同窓会の共催により「50周年記念パーティー・感謝の集い」が華やかに催行されました。

会場となったANAクラウンプラザホテル・グランコート名古屋の大宴会場には、ご来賓、退職された教職員、現教職員、卒業生ほか、総勢約850名が集まり、藤田学園の発展に貢献された方々に感謝の気持ちを捧げました。

私は42年間藤田学園と関わってきましたが、恩師や旧友と久しぶりに再会し、もう忘れかけていたような過去の出来事が次々と鮮明に思い出され、昔に戻ったような楽しいひとときを過ごし、まさしく感慨無量の「感謝の集い」でした。

思い起こせば藤田学園との出会いは昭和47年まで遡ります。

当時、高校３年生だった私は、翌年受験する予定の医学部の下見に出かけました。受験情報誌もインターネットもない時代ですから、“まずは自分の目で見て確かめて”との思いです。名古屋市内の自宅を出発して豊明キャンパス到着まで、電車乗り継ぎのための待ち時間や道に迷いながら歩いた時間を加えますと、じつに2時間以上を要しました。最寄り駅(中京競馬場前駅)からの道は殆ど舗装されておらずまるであぜ道のようであり、キャンパスといっても六角形の校舎を除いて目を引くものは何もなく、いずれ大学病院が建つ場所と思われる赤土の更地には太い鉄骨だけがそびえ立っていたのが印象的でした。「ずいぶん閑散とした寂しい所だな‥‥」。これが私の藤田学園への第一印象でした。たいへん懐かしく思い出されます。

しかし、その後はどうでしょう。キャンパスには新しい校舎や病院などを建てる工事の槌音が絶えず響き渡り、今やあの荒涼としていた更地は藤田保健衛生大学という名の小都市国家のごとく変貌しています。社会に送り出した卒業生の数も27,000名を超えて、我が母校は全国一の医療系総合学園へと目覚ましい発展を遂げました。

いま、私たち卒業生は学内にあっては母校発展の恩恵を最大限に享受しています。また、学外に活躍の場を移しても母校の発展ぶりや名声を聞けば誇らしく名誉に感じています。これは、大変幸せなこととして感謝しなければなりません。

一方、私たちにとって、先人に感謝を捧げることと同様に大切な

のは、今日の発展に満足することなく、後進たちにはいま以上に良い環境を遺してあげることだと思います。

折しも母校では、「将来ビジョン」策定のためのワーキンググループがいくつか立ち上がっています。ワーキンググループの意見は、将来ビジョン策定会議での議論や理事会の承認を経て、“次の50年のための戦略”として、順次実行に移される予定です。

私は、それらの戦略の中には、卒業生の力をもって実行できるものも必ずあると思っています。もし、7つの学部・学校の卒業生全員が力を結集して、母校の「将来ビジョン」の実現に寄与することが出来れば、母校の設備が充実し、学生の学習環境が整い、教職員の職場環境が向上するだけでなく、私たち卒業生もより成長し、同窓会も今より力をつけることが出来るのではないでしょうか。

つきましては、同窓各位におかれては、母校の継続的発展計画である「将来ビジョン」の実現のために、物心両面にわたるご支援・ご協力を賜りますよう、この誌面を借りてお願いいたします。

50周年記念式典やアセンブリ講演会おいて、大村秀章愛知県知事からも江崎玲於奈先生からも「藤田学園は素晴らしい」と、そろってお褒めの祝辞を頂戴しました。大変名誉なことです。

しかし、私は「藤田学園の本当の実力はまだまだこんなものではない」と思っています。将来はもっと大きく成長して発展するはずです。

私たちの世代がいま、藤田学園の未来はこうあってもらいたいと思い描く大きな夢が、50年先に必ず叶っていることを、私は祈念してやみません。

同窓各位の今後ますますのご多幸とご活躍をお祈りいたします。

（平成26年10月18日　記）

藤田学園創立50周年記念行事を開催して

学校法人藤田学園
理事長
小野 雄一郎

藤田学園同窓会の皆様には日頃より学園に多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年10月10日に開学50周年を迎えました本学園は、翌日の10月11日(土)正午すぎから学園の2000人ホールにおいて「創立50周年記念式典」と「創立50周年記念アセンブリ講演会」を開催いたしました。また、同日夕刻からは名古屋市中区のホテルグランコート名古屋において「創立50周年記念パーティー『感謝の集い』」を同窓会との共催により開催させて頂きました。いずれの催しについても、名誉教授と元理事の方々、現在の理事、監事、評議員、教職員等の方々に学園からご案内をさし上げ、多数のご参加を頂きました。式典と講演会には医学部・医療科学部の1、2学年および看護専門学校の1学年の学生諸君も参加しました。

まず、「創立50周年記念式典」では、最初に理事長式辞として、今日まで学園を導いてきた理念の意義、および未来をめざす取り組みと課題について述べさせて頂きました。続いて、公務ご多忙の中を駆けつけてくださいました大村秀章愛知県知事より「日本の最先端を走る医療の総合拠点として活躍を」との励ましのお言葉を頂戴いたしました。次に、「映像でつづる藤田学園」を上映し、続いて星長学長より「これからの藤田学園」と題して、学園再開発の現況と今後の計画、高齢化社会への対応と国際交流推進を含む諸分野のトップをめざす学園の方針が語られました。

「創立50周年記念アセンブリ講演会」では、ノーベル物理学賞受賞者としてご高名な江崎玲於奈先生(現・横浜薬科大学学長)にご講演を頂きました。江崎先生にご講演の依頼をさせて頂いたのは本年の2月頃は、8ヶ月後の記念講演会直前に3人の日本人研究者が本年のノーベル物理学賞を受賞し、しかも江崎先生の同賞受賞(1973年、エサキダイオードの発見)と関係の深い青色発光ダイオードの研究が受賞理由となることなど、全く想定しておりませんでした。「日本人研究者ノーベル賞受賞」の興奮で日本中が沸き返る中、他ならぬ本学園創立50周年記念の

講演会において、江崎先生のご講演を拝聴するという幸運にめぐり会うことができました。

江崎先生のご講演では、生い立ちから大戦時の生活、日本と米国での研究、帰国後の教育者としてのお仕事に至るご自身の生涯の歩みとともに、科学研究における思いもかけない発見のすばらしさ、研究と教育の考え方の違い、サイエンスの歴史、科学と技術の重要性など、大変貴重なお話を頂きました。また、「教育を変える提案の一つが『一人ひとりの才能を伸ばし、創造性に富む人間を育成する。』であり、藤田学園の建学理念「独創一理」にも通ずる。」との貴重なメッセージを頂きました。

夕刻18時からの「創立50周年記念パーティー『感謝の集い』」は、学園関係者305名を含む800余名の方々の参加により、大変盛大な会となりました。最初に理事長挨拶、続いて近松均同窓会長のご挨拶、その後に星長学長による乾杯が行われました。しばしの歓談の後、「これからの藤田保健衛生大学」（本学の未来像）の作文公募者46名から選出された４名の本学教職員諸氏への表彰状授与と、「学園の将来構想」に関する私からのプレゼンテーションを行いました。次に、学園の先輩として、船曳孝彦元学長・名誉教授と長村洋一名誉教授、玉利玲子元看護部長･元看護専門学校教務主任、および山内理充医療科学部同窓会長から大変温かいご祝辞を賜りました。松山裕宇藤医会会長による中締めの後、参加者全員で記念撮影を行い、熱気に満ちたパーティーを終了致しました。

学園創立50周年を記念する式典とパーティーが、同窓会をはじめ、多くの方々のご協力により成功裡に終了しましたことに感謝を申し上げます。「Open the Future」を合い言葉に、力を合わせて藤田学園の新しい未来を始めましょう。

学長に就任して

藤田保健衛生大学
学長
星長 清隆

藤田保健衛生大学同窓会の皆様におかれましては、それぞれのお立場でご活躍のことと存じます。本年４月より藤田保健衛生大学学長を仰せつかっております星長清隆で御座います。昨年末に小野雄一郎理事長から学長職を推薦されました時に、本学には自分より相応しい方がおられる筈なので辞退したい旨申し上げましたが、辞退してもらっては私が困るとの強い御意思であることを知り、学長職をお受け致しました。就任後は毎日が勉強のつもりで自分を奮い立たせております。

さて、ご存知の方も多いと思いますが、本年２月12日に文部科学省の諮問機関である中央教育審議会の大学分科会から「大学のガバナンス改革の推進について」と題する審議のまとめが発表されました。また、それに伴い本年６月20日に国会において「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」が可決され、この法律は来年の４月１日より発効となります。この改正により国公私立大学すべてに共通する重要な事項として「教授会の役割の明確化」ならびに「学長補佐体制の充実」が掲げられています。簡単に説明しますと、“教授会は教育研究に関する事項を審議する”組織であり、“学長が大学における最終的な決定権者であり、教授会は学長に対し意見を述べる関係にある”と教授会と学長の権限の分離を法律上明確にしております。また、学長に大きな権限を与え、リーダーシップの発揮を強く求めていることも特徴で、そのためには学内での適切な役割分担を行うことも奨励しております。すなわち学長の指示を受けた範囲の校務について、副学長が自らの権限で処理を行うことを可能としております。また、これらを円滑に行うために各大学に対し、学則の総点検や制度の見直しを主体的・自律的に行う事を前提に、ガバナンス改革を推進するよう提言しております。

そのため本学では４月より学長のもとに全学教学運営委員会を組織し、３名の副学長と５名の学長補佐を任命し、各学部長や各病院長、幹部事務職員など総勢19名体制で積極的に大学改革に取り組んでおります。具体的には、全学教学運営委員会の下に、教育の質改善、教育基盤整備、研究支援体制の構築、地域連携推進、国際交流推進、産学連携推進など６つのワーキンググループを組織し、各領域で討論を重ね、それぞれの分野での改善を図っております。また、10年後のあるべき姿を示す学園ビジョンの策定の前段階として、「これからの藤田保健衛生大学」と題して、全職員を対象に小論文を募集しましたところ、46編の応募があり、その中から優秀４論文を選定させて頂きました。これらは近日発刊予定の「私立大学われを創りき」に掲載させて頂くことにしております。

学長に就任後まだ半年足らずですが、具体的成果は徐々に表れております。4月以降に締結した海外大学(組織)とのMOUは、国立ザンビア大学、中華人民共和国衛生部人材交流服務センター、国立UAE大学などで、11月４日には国立ソウル大学(世界ランキング44位)と、12月中旬には国立ヤンゴン第一医科大学などとのMOU締結が予定されており、そのほかアジアの数大学からの提携の打診が参っております。また、産学連携では８月25日に名古屋銀行と締結式を行いましたが、その他マスメディアからも連携の打診が参っております。一方、大学間連携では11月に三重大学との防災協

定を結ぶ予定で、今後も近隣の国公私立大学との学々連携の準備を進めております。

以上、私が４月に藤田保健衛生大学学長に就任させて頂きましてからの雑駁なご報告でございます。私の学長としての役目は藤田保健衛生大学を“Fujita as No.1”と称賛される大学に近づけることにあると理解しており、常に”独創一理“と”All Fujita“の精神で、これからも皆様と一緒に頑張って参りたいと思います。益々ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

藤田保健衛生大学病院長　就任ご挨拶

藤田保健衛生大学病院
病院長
湯澤 由紀夫

平成26年４月１日付けにて、星長清隆前病院長（現学長）を引き継ぎまして藤田保健衛生大学病院病院長に就任致しました。同窓会の皆様のお力をお借りして、さらなる発展に向けて全力で頑張る所存でございます。

藤田保健衛生大学病院は、故・藤田啓介総長が1964年に創設されて以来、多くの諸先輩と病院職員の皆様のたゆまぬ努力のもと、社会に貢献する病院として着実に前進し、めでたく創立50周年を迎えることとなりました。その歴史の重みを痛感し、同窓会の皆様のご協力を得て、皆様と共に新たな歴史づくりに挑戦したいと考えております。

藤田保健衛生大学病院のミッションは、大学病院・特定機能病院として「安全で質の高い医療の提供」であり、「これを実現するための医療人の教育、研究の推進」です。

教育、診療、研究、地域貢献・社会貢献、国際化すべての項目に対して「その課題と展望」を明らかにして、皆で共有することが重要です。これを実現するためには、今まで以上の運営（財務・経営・人事労務）基盤の拡充と健全化が不可欠であり、学園本部と一体化した経営改善への不断の取り組みが最重要課題と考えております。

2015年４月完成予定の新病棟の建設は順調に進んでおります。地下１階、地上13階の完全免震の建物で、先進医療・基幹災害拠点病院としての機能を発揮するためのセンターと位置付けております。2012年に竣工した低侵襲画像診断・治療センターとともに、東海地方の災害・救命救急医療の中核になると期待しております。救急医療は、総合救命救急センターに災害救急医療講座が新たに設置され、県内唯一の精神科救急医療施設認定も受け、ドクターカーの運用も順調に進んでおります。今後は「安全で質の高い医療」の実践のため、中央診療施設に加え、化学療法部、中央感染統御部、医療の質・安全管理部、輸血部など組織横断的な部署のさらなる機能強化が大切と考えています。また、医療の国際化に対応するため、外国人患者受け入れのための国の機能評価（JMIP）を今年受審予定で、世界に開かれた病院づくりを目指しております。

一方、国は、日本復興のため、健康・医療を日本の成長分野として位置づけ、医療関連分野のイノベーションを急速に推進し、「病院・病床機能に一定の基準を設定し、医療の質の維持・向上を図る」ために、特定機能病院・臨床研究中核病院の体制強化を図っております。

この流れに乗り遅れることなく、藤田保健衛生大学病院がさらに発展するためには、若手人材の確保とその育成が不可欠です。先端的な医療技術の研鑽、難治・稀少疾患の診断、臨床研究・治療などに対する教育機会を作ることは

もちろんですが、それぞれの職種の立場からチーム医療に参画する人材を作るため、地域医療連携を通して広く教育の場を広げていく必要があります。

臨床研究の推進に関しては、質の高い臨床研究や臨床応用を目指した先端研究を推進するため（１）レギュラトリーサイエンス部門の充実、（２）症例登録、（３）データ共有のシステムの構築、が不可欠です。先進医療を推進し、新たな医療を作り出すためには質の高い臨床研究が必要であり、疫学研究に加え、介入研究を展開するための基盤整備が重要です。藤田保健衛生大学病院でも、従来の「臨床研究センター」の機能が拡充され、平成26年３月には「最先端臨床研究イノベーションセンター」が開設され、さらに機能強化が図られています。

今年藤田学園創立50周年を迎えるにあたり、開院時に創設者が掲げた“我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん”という病院理念のもと、職員一丸となって「安全で質の高い医療」が継続して実践されてきた歴史の重さを実感しております。来年は、長年の夢でありました新棟の完成の年であり、さらに新新棟の建設も予定されております。今後75周年・100周年を見据えた新たな歴史を作るため、あるべき我々の医療の姿を皆で再度議論し、その夢の実現に向けて切磋琢磨していきたいと考えております。

現在、創立50周年に際して藤田学園のビジョン作成の準備がすすんでおります。大学病院として５年・10年後の「診療」のあるべき姿を示したビジョンを作り上げる予定です。

藤田保健衛生大学病院は約2,700人以上の大きな組織となり、効率的で機動的な組織運営は大きな課題です。最終的には、いかに社会に貢献できるかが我々の大学病院の価値を決めると考えております。その使命達成のためには同窓会の皆様の幅広いご支援が不可欠です。何卒今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

就任のごあいさつ

看護学科長に就任して

藤田保健衛生大学
医療科学部
看護学科長
三吉 友美子

同窓会会員の皆様にはご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。皆様には日頃より授業や実習、研究、就職など様々な面でご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

４月１日付で看護学科長に就任いたしました。６年の長きにわたり学科長として学園に貢献されました山田静子先生のあとを引き継ぎますこと、身の引き締まる思いでございます。先生が築き上げられた基盤を維持し、学園の理念に基づく教育実践に向け努力する所存です。今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、日本で看護学部または看護学科、看護学専攻（以降、看護学科と記す）を設置する大学は228大学になりました。3.3大学中１大学に看護学科があることになり、「『大学と言えば看護』の時代⁉」と報じられています（旺文社教育情報センター）。超高齢社会を迎え、看護職員の需要がますます高まることが見込まれており（第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書）、看護学科の増加は今後も続きそうです。

大学に看護学科があることが今でこそ普通になりましたが、日本で初めて大学で看護教育が開始されたのは1952年であり、1968年に本学科が日本で４番目に開設されました。その後、看護学科の増加は遅々として進まず、1991年に11校でしたが、翌年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の制定をきっかけに一気に増加し、今に至っています。

大学少数時代を支えてきた本学科を「老舗」と呼ぶ人がいます。まさに、創業以来の老舗の味といえる開学以来の「良き医療人を育てる」という学園の理念を、半世紀近くに渡り貫き、守り続けてきた本学科は正に「老舗」といえましょう。老舗の味を守り続けてこられた同窓生の皆様の偉業に感謝すると伴に、「老舗」の良さを守っていく所存です。

皆様のますますのご活躍と同窓会のさらなるご発展を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

新教授のご紹介

（順不同）

母校の発展に寄与

藤田保健衛生大学
疾患モデル教育研究センター
センター長
長尾 静子
（衛生学部第１２回生）

平成20年から疾患モデル教育研究センター長として、時代が要求する施設への変革、動物実験者の意識改革および法令遵守の整備に着手して参りましたが、この度、

教授を拝命致しました。今後は、これまで以上に世界に先駆けた研究の支援や若手研究者の育成に尽力する所存です。自分自身も難治性疾患の病態解明とその治療に貢献できる基礎研究を継続して行い、患者様に有効な情報を提供できるよう邁進したいと考えております。また、日本において本分野をけん引する大学のひとつとして、施設協議会等で積極的に活動して参ります。女性が社会貢献することが期待される時代となりました。周囲の皆様のご理解とご協力により仕事と家庭を両立することができた私も、一つのモデルケースとして後進の先生方に参考にして頂けると幸いです。皆様のご期待に女性ならではの視点を加えて、母校の発展に寄与できるよう精進していく所存ですので、宜しくお願い申し上げます。

リサーチマインドを持った臨床医の育成を目指して

藤田保健衛生大学
医学部
小児科教授
（坂文種報徳會病院）
近藤 康人

この度2014年４月１日付けで藤田保健衛生大学医学部小児科教授（坂文種報徳會病院）を拝命いたしました。

私は昭和62年に藤田保健衛生大学を卒業し本学で２年間の研修後、大学院に入り学位を取得。1994年秋からデンマークALK研究所で８か月花粉アレルゲンの研究を行った後、米国の国立医薬品局（FDA）に留学し、花粉と果物アレルギーの共通抗原性について２年間研究しました。この米国留学中に研究した口腔アレルギー症候群が現在の私のライフワークになっております。

これまで多くの諸先輩方に支えられ、優秀な後輩たちにも恵まれ、私はこうして今年４月に一つの節目を迎えることができました。これまでお世話になった母校に貢献するため、これからも多くの「人間味あるリサーチマインドを持った臨床医」の育成を目指し全力を尽くしていく所存です。藤田保健衛生大学ならびに坂文種報徳會病院をより一層、魅力的な医学教育大学にするために一生懸命頑張りたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

良き後進を育てる

藤田保健衛生大学
医学部　教授
（生理化学）
中島 昭
（衛生学部第１１回生）

平成26年４月１日付で、医学部生理化学教授を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。私は1982年衛生学部卒業の第11期生になります。愛知医科大学第１生理学教室を経て、1989年からは本学医学部生理学講座Ⅰに在籍していました。生理学講座Ⅰでは、前教授の佐々木勧先生に凝固生理学研究の基本をご指導頂きました。1997年に太田明先生が教授に就任されてからは研究分野を変更し、留学先のニューヨーク医科大学のEther L Sabban教授の研究手法も取り入れて、神経化学分野を研究領域にしています。現在は、永津俊治先生（本学名誉教授）が発見された著名な神経伝達物質合成系酵素である「チロシン水酸化酵素」に関して、その細胞内動態に興味を持ち研究を進めています。基礎研究ではありますが、「パーキンソン病に代表される神経変性疾患」の解明にも繋がる重要な研究です。

教育に関しては、松井俊和教授（本学医学部１期生）が開設された医学教育企画室副室長役と准教授を2001年から兼務しています。生理学講座Ⅰにおける准教授としての仕事に加えて、教育環境の改善を目的とする医学教育企画室における仕事を経験することができ、実り多い12年間を過ごすことができました。

本学の教育理念の中に「リサーチマインドを有する医師の養成」が挙げられています。今後はこれまでに培った研究に関する経験だけでなく、医学教育に関する知識を生かして後進のために尽力したいと考えています。

恩師からのお便り

（順不同）

文化の香高き藤田学園

医療科学部
臨床工学科
前教授
有田 豊

2007年３月に三菱電機を早期退職し、４月から電気・電子工学の教授として着任しました。７年間教鞭をとりましたが、今年の３月で定年退職しました。短い期間ではありましたが、短大・専攻科の学生達とのコンパやカラオケなど楽しい思い出がいっぱいです。大学に来て一番驚かされたの　は2000人ホールです。日本では殆ど見かけることがない西洋のオペラハウスような華麗で

壮大な音楽ホールで著名な音楽家を招いてコンサートを開催していましたがこのような文化の香の高い藤田学園が好きです。司馬遼太郎は文明は便利で役に立つ物、文化は役に立たない物であるが必要な物と言っていたようです。私も文化は物質的には役に立たないが精神的に役に立ち人間に必要な物だと思います。2000人ホールは藤田学園のシンボルであり、文化を愛する藤田啓介先生が作った伝統がいつまでも続くことを願っています。尚、退職後はゴルフのシングルを目指して日々、基礎体力から鍛え直している今日この頃です。

『アセンブリ』の重要さ

公益財団法人
豊田地域医療センター
院長
井野 晶夫

1976年１月から藤田保健衛生大学病院で研修を始め、以後2001年までは血液・化学療法科、その後は2014年まで救急総合内科（設立時は一般内科）に在籍し、大学では大変お世話になり、多くの勉強をさせて頂きました。お世話になった皆さまには大変感謝しております。

2014年より赴任しています豊田地域医療センターは、この地域の急性期病院と一般診療所との中間に位置して、まさに地域の医療連携のハブとなる病院です。総合診療、在宅医療の支援、健康診断、救急医療、看護師養成を主要な機能として豊田市および豊田・加茂の医師会、歯科医師会、薬剤師会とも連携して診療を進めています。2025年問題の超高齢社会に備え、『時々入院、ほぼ在宅』と言われるような医療を支えるべく、地域全体で多職種、多施設が円滑に連携した体制を構築することは重要な使命です。

藤田保健衛生大学病院研修の「地域医療」や豊田市・藤田保健衛生大学連携地域医療学講座を通じて大学との交流も多く、今後さらに医学部ポリクリ、地域枠医学部学生の実習も加わる様で楽しみです。一方、専門医制度の改革により総合診療専門医が2017年に新たに設置されることが決まりました。この『地域を診る医師』の後期研修コースが藤田保健衛生大学総合診療・家庭医療プログラムとしてプライマリ・ケア連合学会から認定を受けることができました。質の高い、一流の家庭医を育成できる研修コースになりますので、是非期待してください。

大学病院での診療と比較して地域医療ではほかの職種の役割も大きく、豊田地域医療センターではまさに医療科学部と連携した『アセンブリ』の重要さを実感しています。

『光陰矢の如し』

医学部
小児科
前教授
宇理須 厚雄

あけぼの杉の会員の皆様はお元気でお過ごしでしょうか。

私は今年の３月で定年退職となり、新たな人生を歩みだす準備をしています。

米国は軍人や警察官など政府関係の職業を除いて定年退職はないと聞いたことがあります。私の場合、自分の意志で退職するとなると、なかなか踏ん切りがつかず、いつまでもズルズルといくような気がします。定年退職制度があった方が、元気なうちに新たな人生を歩みだすきっかけとなり、悪くない制度であると思います。

体力・記憶力の衰えはなすすべがありませんが、気力はまだ残っています。

しかし、この年になると、時間の大切さも痛感します。「歳月人を待たず」、「烏兎匆匆」、「光陰に関守なし」。時が経つのは早いことをいう諺は沢山あります。働けるパワーが残っている期間は長くはありません。それ故、目標を絞り、中身の濃い生活をしようという気持ちになっています。

「光陰矢の如し」。皆様も、時間を大切にして、健康にも留意しながら、ご活躍して頂けますよう祈念しています。

ディレンマとの格闘

藤田保健衛生大学
医学部
英語教授
木戸 正幸

平成23年度いっぱいで定年退職し、いまは客員（非常勤）で論理学や英語の授業をいくつか担当しております。時間的には多少余裕ができ、やりたいことが思う存分できるはずですが、そう思い通りにはいきません。

①：強制されると、自発的な関心がもてず、なかなか実行できない。

②：自発的な関心があっても、強制がないと、なかなか実行できない。

こうしたディレンマからなかなか抜け出せないのが私のような凡人の人生なのでしょう。

学生時代には①のような状態に置かれ、卒業後は②の状態に置かれるというディレンマ、卒業生のみなさんも感じてはおられないでしょうか。もしそうであれば、私とともにこのディレンマと格闘していきましょう。

同窓会員の活躍（順不同）
（学会支援事業報告）

日本アディクション看護学会 第13回 学術集会・総会

藤田保健衛生大学
医療科学部看護学科
精神看護学准教授
近藤 千春

平成26年９月20日（土）、21日（日）、藤田保健衛生大学におきまして第13回日本アディクション看護学会・学術集会を「当事者から学ぶアディクション看護」のテーマで開催をいたしました。参加人数は244名で盛況のうちに無事終えることができました。

本学会は、企画実行委員会の初期の段階から、当事者や家族の方と共に準備を進めてまいりました。また学会当日においても、名古屋ダルクや三河ダルク、名古屋マックの多数のボランティアスタッフの協力を得て、依存症の当事者と共に学会を運営することができました。２日間のプログラムの内容は、大会初日大会長講演に続き国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦先生より「治療仮説からみたアディクション」のテーマで依存症に至る背景などについてお話をいただきました。また、午後の教育講演では、弁護士の伊藤邦彦先生より「刑の一部執行猶予の下で保健医療における援助はどう変わるか」のテーマでお話を伺いました。この他２つのシンポジウムと４つの分科会、ギャンブル依存症によるモデルミーティングを行いました。シンポジウムはいずれも当事者がシンポジストとして参加する内容でした。特に「依存症本人・家族にとってのリカバリー」の分科会では、当事者の視点から回復について語られました。児童虐待とアディクション問題のシンポジウムでは、児童虐待援助の専門家と共に、虐待を受けた当事者からの発言もあり虐待問題の具体的な内容が報告されました。分科会は、①アルコール問題と介入法―SBIRTを取り入れよう―では、アルコール依存症の初期介入の方法が実習を含んだ実践的な内容で展開されました。②看護師の『体験グループ』では27名の参加者がありました。③アディクション看護のための「動機付け面接」の基礎講座では、60名の定員のところ定員を超える参加者がありました。④当事者から学ぶSMARPPの実践においては、ダルク職員がファシリテーターを務めるモデルミーティングの後、SMARPPの実践経験者を中心に、会場内の参加者との意見交換が行われました。

第15回 日本赤十字看護学会学術集会を終えて

会長
日本赤十字豊田看護大学学部長
小児看護学教授
大西 文子
（衛生学部衛生看護学科第５回生）

本学術集会は、2014（平成26年）年６月14日～15日、日本赤十字豊田看護大学において開催いたしました。メインテーマは、赤十字の理念「人道」と、看護職者が患者を「人間らしく生きる」ように支援するために育まなければならない人間としてのこころ、すなわち「看護のこころ」が共通するものは「ヒューマンケアリング」と考え、メインテーマを「看護実践におけるヒューマンケアリング」としました。プログラムは、メインテーマに沿って、会長講演「看護のこころを育む実践」をもとに、安酸史子先生（防衛医科大学校医学教育部看護学科学科長）による基調講演「経験型実習・教育が育むヒューマンケアリング」、立川幸治先生（OPホールディングスK・K代表取締役）による教育講演Ⅰ「経済効率と看護のこころ」、片岡笑美子先生（名古屋第二赤十字病院副院長兼看護部長）による教育講演Ⅱ「医療にかかわる人材育成のためのコーチング」、守田美奈子先生（日本赤十字看護大学学部長、基礎看護学教授）・宮坂佐和子先生（諏訪赤十字病院副院長兼看護部長）・谷口理恵先生（庄原赤十字病院副看護部長）の３名によるシンポジウム「看護実践にあるヒューマンケアリングへの気づき」、薄井坦子先生による「今、語り継ぐ看護のこころ－サイエンスとアートが融合する世界を目指して－」の特別講演が予定通り行われました。一般演題発表は109題と多く、全国から313名の多くの参加を得ました。本学術集会をこのように無事終えることができましたのも、藤田学園同窓会より助成金をいただいたことにより、きめ細やかな配慮ができたおかげであると思っております。心より深く感謝申し上げます。

末筆となりましたが、母校であり長きにわたり勤務させていただいた医療科学部看護学科と藤田学園同窓会のますますのご発展を心より祈念しております。

（平成26年９月）

第39回 日本超音波検査学会学術集会を終えて

小牧市民病院
臨床検査科
余語 保則
（衛生学部衛生技術科第18回生）

今回、学術集会の実行委員長を拝命いたしました。指名を受け、何をどーしたら良いのかと右往左往いたしましたが、藤田保健衛生大学の一学年下で野球部の後輩でもあった西川君（衛生技術科19回生）に事務局長をお願いし、また、中部地区の超音波検査を牽引している藤保大出身の多くの仲間に実行委員となって頂くことで、安心かつ迅速に企画・運営をしていくことができました。

学術集会では、「知と技の融合～improving one's learning capacities and skills～」をテーマとし、講演や症例検討など、盛りだくさんに企画され、2,275名（藤保大や他の中部地区の学生や招待者を含む）の来場者と、過去3番目の参加者を迎えることができました。また、ランチョンセミナーを含めた多くの企画にて藤保大の先生方に御講演頂きました。

学術集会当日は、日本の裏側の南米ブラジルでサッカーワールドカップが行われていましたので、懇親会では、日本代表ユニフォームを模したJSS39ユニフォームを実行委員が着て参加者の方々への「お・も・て・な・し」をいたしました。ユニフォーム作成や入場セレモニー映像作成、そして弦楽四重奏を奏でていただいた方々の招聘には藤保大卒業生の実行委員や実務委員が迅速に対応して頂きました。

不甲斐ない実行委員長であったにもかかわらず、藤保大出身の多くの仲間に支えられ、盛会のうちに終了することが出来ました。ご協力頂いた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました、Thank you・39（今回は第39回学術集会です）の気持ちでいっぱいです。

第15回アジア太平洋外科組織保存学会・第13回日本組織移植学会合同学術集会を開催して

医療法人蜂友会
はちや整形外科病院
院長
蜂谷 裕道
（医学部第7回生）

藤田保健衛生大学を卒業して30年、入学時の名称は名古屋保健衛生大学でした。藤田 啓介 総長のご意志で現在の名称が変更されました。

卒業後、父の病院を継ぐべく矢部 裕 教授率いる整形外科学教室に入局しました。その後、脊椎脊髄外科の吉澤 英造 教授に師事し、脊椎脊髄外科を学びました。入局時の矢部 裕 教授の薫陶は今でも頭に残っています。「整形外科医には頸から上（頭）はいらない。頸から下がすべてだ。だから、しっかり身体を使って働け！けれども忘れるな。頸から下にはハートがある」と言って胸の心臓のあたりをたたいたのです。この時、どんな患者さんに対しても真正面から対峙する覚悟を決めました。以来30年、真摯に医療に取り組み、開業医ではありますが、学会活動も続けてまいりました。

その結果、今年2014年8月27日（水）～29日（金）に、岐阜県の長良川国際会議場において第15回アジア太平洋外科組織保存学会（APASTB）と第13回日本組織移植学会（JSTT）を主催させていただく機会を授かりました。

APASTBには3講演46演題、JSTTには2講演26演題のご発表をいただき、終始niceでhotなdiscussionが繰りひろげられました。Optional tourには長良川の「鵜飼」を用意し、海外からの先生方含めご参加のみなさまに大変喜んでいただきました。

ご支援くださいました同窓のみなさまには深謝いたします。また、同門のみなさまにもご協力いただきましたこと、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

第51回 日本リハビリテーション医学会学術集会

藤田保健衛生大学
医療科学部
リハビリテーション学科
伊藤 慎英
（リハビリ専門学校７回生）

このたびは、第51回日本リハビリテーション医学会学術集会（平成26年６月５日～７日、名古屋国際会議場）の開催において、貴重なご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

リハ医学世紀の後半をスタートする重要な本学術集会は、才藤栄一大会長のもと、藤田保健衛生大学リハビリテーション部門（藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座・Ⅱ講座、藤田保健衛生大学病院リハビリテーション部、坂文種報德會病院リハビリテーション部、七栗サナトリムリハビリテーション部、藤田記念七栗研究所リハビリテーション研究部門、医療科学部リハビリテーション学科）の全面的なご協力と藤田学園同窓会のご支援のお陰を持ちまして、過去最高を超える4747名の方々にご参加いただき盛会裏に終えることができました。

本学術集会は「実用リハビリテーション医学 -Practical Rehabilitation Medicine-」をテーマとしました。リハ医学は、徹底的に実用的な医学だと思うからです。そして、リハ医学のコアである「活動（activity）」にフォーカスし、キーワードは、ユニークで普遍（unique & ubiquitous）、実用先進（practical innovation）、構造的知恵（structured knowledge）としました。

また、初日：国際 Day、二日目：チーム Day、三日目：市民／学生／研修医 Day をサブタイトルに特徴あるプログラムを展開しました。会長講演は「活動の臨床としてのリハビリテーション医学」と題して、リハ医学のコアである「活動」をどのように考えて、リハ医療を展開していくべきかを議論しました。各会場ともほぼ満員となり大盛況でした。

４つの展示会場は、トヨタ自動車のロボットをはじめ、最新のリハ関連医療機器、義肢装具、嚥下関連など、先進的70社の大変興味深い展示が、出展者と参加者との間の熱気溢れる交流をもたらして頂けました。

一般演題は過去５年で最高の756題、各会場で熱の籠った活気のある議論を交わして頂きました。また、コメディカルポスターセッションを特別企画として同時開催し演題数287題と大変な盛り上がりがみられました。

市民公開シンポジウムでは、「ロボットが変えるだろうリハビリテーションの未来」と題し、日本の医療における課題をロボットによって克服し、明るい未来が待っていることを市民の皆様にご理解をいただきました。

本学術集会の成功は、藤田保健衛生大学リハビリテーション部門、藤田学園同窓会、また本学術集会に携わって頂きました関係の皆様のご指導、ご支援の賜物であると思っております。ここに学術集会の成功のご報告を申し上げるとともに、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成26年度 全国地域リハビリテーション合同研修会 in あいち

～地域包括に介護・終末期リハ・ケアの実現を目指して～

藤田保健衛生大学
医療科学部
リハビリテーション学科
教授
澤 俊二

７月５日、６日、名古屋国際会議場を舞台に、「平成26年度全国地域リハビリテーション合同研修会 in あいち」を開催しました。2025年までに「地域包括ケアシステム」を構築するに至るまでには、多くの方がお亡くなりになる。また、多くの方が障害を負うことになる。そのため、「地域包括ケアシステム」に終末期リハビリテーション思想に基づいた実践システムを組み込むことが急務であろうとこのテーマに決めました。全国から参加者があり、盛況でした。本学学生、卒業生が多数参加をしてくれました。運営には、才藤副学長、金田副学長のご理解の下、多くの教職員同窓会員が関わって頂きました。文を終えるにあたり、深く感謝申し上げます。

同窓会を開催して（順不同）

衛生学部衛生技術学科第23回生 卒業20周年記念同窓会

日時：平成25年11月16日　場所：ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋　参加者：61名

卒後20年目の平成25年11月16日（土）、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋にて、卒業後２回目の同窓会を開催しました。参加者は全国から集まった同級生に恩師の丸田一皓先生をお迎えして、総勢61名となりました。

丸田先生からお言葉を頂き、乾杯の後、懐かしい卒業アルバムの写真や大学の近況を撮影した写真に音楽を加えて編集したスライドショーを供覧しました。学生時代の懐かしい写真、若かりし頃の丸田先生の写真、同窓会当日は学会のためご出席頂くことができなかった伊藤祥輔先生からのお手紙を紹介して、同窓会は大いに盛り上がりました。

参加した同級生からは、「前回の同窓会で再会した10年前と比べて、仕事において重要な業務や責務を任される年代となり、みんなしっかりした感じになっていた」、「10年前は子供が産まれたという話が多かったが、今回は子供の勉強や受験といった話題が多かった」などの声が聞こえました。

二次会にも48名が参加してくれたため、幹事が会場で座れないほどの盛況となりました。また、「10年というスパンは長すぎる」という意見もあがり、「同窓会を楽しみにしているので、今後は５年ごとに開催して欲しい」などといった、幹事としては嬉しい要望もありました。

最後に同窓会の開催にあたり、藤田学園同窓会より周年記念同窓会開催のご支援を頂きましたこと、紙面をお借りして御礼申し上げます。

（文責：山本、北川、加藤、大野、関根）

衛生学部衛生看護科17回生 卒業後25周年記念同窓会

日時：平成25年11月30日（土）　場所：名古屋マリオットアソシアホテル　参加者：25名

平成25年11月30日（土）、名古屋マリオットアソシアホテルにて衛生学部衛生看護学科第17回生卒後25周年記念同窓会を開催致しました。卒業直後は同級生同士顔を合わせる機会も多かったのですが、お互い仕事の責任が重くなり、また結婚や出産で家庭での責任も増えるにしたがい、会う機会も激減しました。そのような中、紙面で近況を報告しあう紙面同窓会なども企画し、お互いの近況などは把握しておりましたが、今回の同窓会では実に25年ぶりの再会という人も多く、35名の同級生が全国から集り、喜びと感動にあふれた同窓会になりました。

若くして逝去された城田浩子さんを偲びつつ、幹事代表の挨拶、同級生を代表して中村小百合さんの乾杯の音頭で同窓会が始まりました。その後、恩師である山田五十子先生、多田恒子先生、山幡信子先生、渡邊トシ子先生の４名の先生方にご挨拶をお願いしたところ、現役時代を超えるパワーと情熱で語って頂き、私たちは人生の師であり先輩である先生方から、再び教えを授かる事ができ、自然と頭がさがる思いでした。そんな先生方の教え子である17回生は、当初予定にはなかった『全員が一人一言』の機会が与えられると、それぞれの活躍ぶりが良くわかる饒舌なトークが展開され、あっという間に予定時間を過ぎてしまいました。思い出話や近況報告、同じ職種や同じ職場環境の人同士で情報交換を熱心にしたり、老化話で盛り上がったりと同級生ならではの気の置けない本音の語り合いで、すっかり心が満たされての閉会となりました。またの機会をつくるべく次回の幹事を決めて、残念ながら今回出席できなかった方々も何とか再会できるように、未来へ希望をつなぎました。

会を終えて、あらためて17回生の個性的なメンバーと、尊敬できる恩師と出会うことができたこと、そして現在自分自身に与えられた場所で一生懸命努力していること等を思い返し、すべての恵みに感謝の気持ちでいっぱいになりました。今回の同窓会は、明日への生きる力を与えてくれました。ありがとうございました。

（文責　藤井徹也）

衛生学部衛生看護学科11回生 同窓会
卒後30周年記念の同窓会を開催して

日時：平成25年10月26日　場所：名鉄グランドホテル　参加者：19名

平成25年10月に同窓会を開きました。５年ほど前に１回開催していますので、今回で２回目となります。卒業していつの間にかこんなに長い年月が過ぎてしまったことを感じつつ、19人が集まりました。お互いに顔を合わせ話が盛り上がると、30年の時間の経過を感じさせない(学生時代とほとんど変わらない：ちょっと無理？)友達ばかりでした。衛生看護学科11回生は、子育てをしながら現役で働く人が大半で、県外在住も多く、同級会がなかなか開けませんでした。子育てから手が離れてきた時期となり、九州～北海道の同級生が名古屋に集まることができました。同級生はいつになっても同級生であり変わらないです。二次会でも、思い出話や現在の生活の事など話が尽きないほどでした。

住所がつかめず連絡が届かなかった人もおりますので、その方は同級生どなたにでも連絡ください。今回都合で参加できなかった人も、３回目の同級会を楽しみにしましょう。

（幹事：桑原、富永）

衛生技術学科22回生 卒後20周年記念同窓会

日時：平成25年11月16日(土)　場所：ワイン食堂ウノ４丁目店　参加者：39名

「わ～、久しぶり！」「どうしたの？頭」等、10年ぶりの再会とは思えない発言で、会った瞬間に学生時代にタイムスリップし始まった卒後20周年記念同窓会は、平成25年11月16日(土)、名駅近くのワイン食堂ウノ４丁目店で開催しました。

今回、北は青森、南は鹿児島と遠方からの出席が多く、逆に愛知県近郊の出席者が少ないという距離に反比例した同窓会となりましたが、39名で懐かしい時間を過ごすことができました。10周年の時は、子供連れが多く保育士さんをお願いしましたが、今回は子連れもいず、話題は仕事のこと、自身の健康のこと、子供の進学について等、年齢を感じさせる内容ばかり。参加者は、仲が良い人とばかりでなく、学生時代は話したこともない人も一緒になり、大変盛り上がる時間を過ごすことができました。話しは尽きないようで、参加者の大半が２次会に参加し、「次は５年後に開催して！」という声が多数聞かれ、幹事としてはうれしい限りでした。この度、藤田学園同窓会から支援をいただき、本当にありがとうございました。是非５年後も同窓会を開催できたらと思っています。

（衛生学部・衛生技術学科22回生
石黒由香）

医学部12回生「卒業四半世紀を祝う会」

パート1　日時：平成25年2月15日　場所：名古屋マリオットアソシアホテル　参加者：30名
パート2　日時：平成25年9月14日　場所：名古屋マリオットアソシアホテル　参加者：26名

平成元年卒の私たち十二回生にとって、今年は卒業から四半世紀となる記念すべき年であります。

最初の「卒業四半世紀を祝う会」は、２月15日に企画したのですが、その日の名古屋は前日の積雪のために交通機関に影響があり、特に遠方からの参加者には、来名を断念した方も予想以上に出てしまいました。（参加者30名）

参加者は大いに盛り上がったのですが、参加断念組からリベンジ企画の希望が出て、その場で「卒業四半世紀を祝う会パート２」の構想が上がり、９月14日に開催のはこびとなりました。

パート２の会では、特別ゲストとして、恩師の吉村泰典先生、吉村陽子先生ご夫妻にもご出席いただき、懐かしくも楽しいひと時を過ごすことができました。（参加者26名）

我々が教わった当時の吉村泰典先生（当時講師・我々が卒業した次の年に杏林大学助教授として転任、後に慶応大学産婦人科教授、現内閣官房参与）、陽子先生（当時講師、現藤田保健衛生大学形成外科教授）の年齢を自分たちがはるかに超えてしまっていることに愕然として、あのころの自信に満ちた先生方に少しでも近づくことができたのかと、自らに問いかけながら…大いにビールを飲んだのでありました。

２月15日集合写真

９月14日集合写真

2014年 国家試験合格率

■ 藤田保健衛生大学　医学部

学　科	資格名	区分	合格率％	全国平均
医　学　科	医　師	新卒	98.0%	93.9%
		既卒	80.0%	61.7%
		計	97.1%	90.6%

■ 藤田保健衛生大学 看護専門学校

学　科	資格名	合格率％	全国平均
看　護　科	看護師	97.4%	89.8%

■ 藤田保健衛生大学　医療科学部

学　科	資格名	合格率％	全国平均
臨床検査学科	臨床検査技師	100 %	81.2%
看護学科	看護師	99.1%	89.8%
	保健師	97.2%	86.5%
放射線学科	診療放射線技師	93.0%	76.5%
リハビリテーション学科 理学療法専攻	理学療法士	100 %	83.7%
リハビリテーション学科 作業療法専攻	作業療法士	100 %	86.6%
臨床工学科	臨床工学技士	97.6%	78.8%
医療経営情報学科	診療情報管理士認定資格（注）	100 %	43.7%

（注）診療情報管理士認定資格のデータは、３年生の実績です。

いこいの広場コンサート

平成26年度 活動報告

共同利用研究施設　分子生物学　准教授
山本 直樹

医療科学部　臨床検査学科　准教授
大橋 鉱二

医学部　病理学　教授
堤 寛

前任の松田真谷子先生（元医療科学部音楽療法教授）から“いこいの広場コンサート”を引き継いで今年度で２年目、初回開催から10年目の節目となりました。昨年度は、とにかく継続させることを中心に精一杯の運営でしたが、２年目を迎えてプログラムやコンサート中のトーク内容など、独自性を出せるようになってきました。毎回150人以上の患者さんに集まっていただいており、中には満席で座れずに立って見ていただいていることもありました。大学病院で行われる行事の１つとして定着してきたと思っています。

コンサート開催当時からの特徴として、コンサートの運営と開催に本学の学生ボランティアが加わっています。遠くから椅子を運んで大規模な会場設営を担ってくれており、学生なしではコンサートの開催はできません。コンサート中の患者さんたちの笑顔、コンサート終盤の学生の一言挨拶では会場の患者さんたちから拍手をいただき、これが学生を動かす原動力となっています。同時に主催をする我々も学生が舞台上で緊張の中、コンサートの回を重ねていくにつれ成長していく姿を見ていますと、患者さんたちによって学生を育てていただいていることを強く感じます。学部学年の垣根を越えたアセンブリ精神発揮の場として、今後も“いこいの広場コンサート”への学生ボランティアの積極的な参加を期待します。

第１回コンサートの開催当初より一貫して支援をいただいている「藤田学園同窓会」と「ユリカ株式会社」には、平成26年度以降も引き続き共催していただけることに深謝します。

【平成26年度 いこいの広場コンサート開催概要】

通算開催回数	開催日	コンサート概要
第111回	平成26年４月26日	女性独唱とオカリナとピアノ弾き語りとともに
第112回	平成26年５月31日	ゴスペルとオーケストラとともに
第113回	平成26年６月21日	ビッグバンド・ジャズと落語とともに
第114回	平成26年７月12日	アカペラと日本舞踊とゴスペルとともに
第115回	平成26年９月20日	天野鎮雄（アマチン）とブラスバンドとともに
第116回	平成26年10月18日	ピアノと尺八とともに
第117回	平成26年11月29日	女声コーラスとタヒチアンダンスとともに
第118回	平成26年12月20日	藤田学園学生と教職員とともに
第119回	平成27年１月24日	ソプラノとゴスペルとブラスバンドとともに

同窓会各部会お知らせ

医学部部会(藤医会)

平成26年度の部会報告をさせて頂きます。

本誌が発行される頃は、藤田学園創立50周年記念パーティーも終了し、皆様が新たな一歩を踏み出される頃と存じます。医学部・藤医会自身も50周年に向けて、新たな気持ちで活動してまいりたいと思います。

さて、今年度の状況報告としまして、

①藤医会会員数：4306名(含：学生会員)

②学内スタッフ人数：教授18名(99名中)、准教授26名(79名中)、講師65名(129名中)、助教189名(301名中)、助手61名(85名中)、合計359名(693名中)

③平成25年度医学部国家試験の成績：現役合格率：97.97%(全国18位)、全体合格率：97.1%(全国10位)

の3点をご報告いたします。

ここまで藤田保健衛生大学医学部を、そしてその卒業生をお育て頂いた恩師の先生方には、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。これからも、藤田が歩みを止めることなく成長していくためには、熱い心を持った卒業生指導者の団結が不可欠であります。引き続き、学園と同窓会が一体となったご指導をお願いいたします。

藤医会は今、全国の各支部に直接訪問すること、そして各支部間のつながりを持っていただき、点と点の関係から線の関係につなげることを目標としております。平成23年度より、北海道から沖縄まで、執行部が支部にお邪魔して、藤田保健衛生大学医学部の現状を報告して参りました。今なお、成長途中の藤医会でありますが、藤田学園創立50周年を機に、再び新たな一歩を踏み出すつもりで、将来への目を向けてまいりたいと思います。

(藤医会会長　松山裕宇)

医療科学部

医療科学部同窓生の皆様、日頃から同窓会活動へのご理解とご支援を頂きまして誠にありがとうございます。

今年度は、長年の懸案事項であり同窓生の皆様からのご要望も多数頂いておりました医療科学部同窓会ホームページを開設することができました。開設に際しましては、副会長を始めとする役員の皆様に忙しい中、多くの時間を割いて頂き誠にありがとうございました。同窓生の皆様にはホームページをご活用頂き、情報交換はもとより、同窓会活動の活性化に繋がると考えられる同窓会支部設立のツールとして頂ければ幸いと存じます。支部設立に関しましては、同窓会と致しましても平成26年度事業計画案のひとつとして、可能な限り支援を行いたいと思っております。その他にも、AEDの寄贈、同窓会主催の学術講演会、卒業記念品の贈呈など在学生に向けた支援も継続的に実施しております。

今年度、藤田学園は創立50周年を迎えました。医療科学部同窓会と致しましては、今後100周年に向かって更なる進化を続ける藤田学園の少しでもお役に立つことができるような活動を展開していきたいと考えております。

(医療科学部同窓会会長　山内理充)

短期大学

今年度の藤田保健衛生大学短期大学部会活動は、特記すべき部会活動はありませんでしたが、10月4日17時から名古屋市内におきまして、短期大学同窓会総会及び懇親会を開催し、短期大学同窓会会長をはじめ、十数名の会員参加がありました。当日の総会におきまして、以下の事項が審議、承認されましたので報告致します。

1．平成25年度活動・会計報告
2．平成25年度会計監査報告
3．平成26年度予算案
4．平成26年度新役員案

今年10月10日には、藤田学園創立50周年を迎え、翌11日に「藤田学園創立50周年 感謝の集い」が盛大に開催されました。多くの卒業生が参加されましたが、短期大学が閉校していなければ、今年で学園とほぼ同じ年月の48年目になり、短大が藤田学園の発展に大いに寄与してきたこと改めて感じた次第です。

短期大学同窓会といたしましても、定年退職され第二の人生を楽しんでおられる方、現役でバリバリ活躍されている方など、多くの卒業生の動向やご活躍等をホームページでご紹介し、掲載内容を充実していきたいと考えております。

今回の感謝の集いの様子など、近況報告を同窓会用メールアドレス(ホームページに掲載)から投稿をお願い致します。

同窓生の皆様には、今後とも、短期大学同窓会を盛り上げていけるよう、ご協力を宜しくお願い致します。

(短期大学同窓会会長　瀬川善樹)

看護専門学校

看護専門学校部会では、藤田学園同窓会を全面的にバックアップしております。主な活動内容は次の通りです。

新卒業生、既卒者及び学生名簿の管理を藤田学園同窓会名簿委員会と協力して行っております。（住所変更、勤務先変更の際は是非お知らせください。）また、藤田学園同窓会奨学基金への資金援助や新卒業生への卒業記念品贈呈（ナースウォッチ）、教育教材寄贈（今年度はパーソナルコンピューター、トイレのエアータオルを寄贈）などです。

平成26年４月19日（土）に看護専門学校同窓会総会を開催いたしました。次年度は、平成27年４月25日（土）13時から、看護専門学校同窓会総会を藤田保健衛生大学看護専門学校にて開催予定です。同窓生の参加をお待ちしています。

三年課程では、この春に12回生の38名が卒業（看護専門学校累積数3,194名）し、そのうちのほとんどが藤田学園関連の病院で勤務しています。そして、第15回の新入生を迎えました。

看護専門学校では、図書室の充実化が図られております。同窓生の図書の利用も歓迎しております。是非ご利用ください。

卒業生の動向について同窓生にお知らせしたいと思います。同窓会等を行われた際には、是非お知らせください。あけぼの杉に掲載したいと思います。よろしく、お願いいたします。

連絡先：藤田保健衛生大学看護専門学校事務局
（TEL 0562-93-2593、FAX 0562-93-9394

名簿委員会

平成26年３月の大学院を含む卒業生数が677名で、同窓会員数は延べ27,878名になりました。一方で、住所不明者数の合計は4,526名で、全会員数の16.2％です。物故者は257名です。名簿委員会としては、各学年の幹事の方々に、10年、20年などの節目の年に当たるクラス会などの行事を利用して、同窓生名簿の調査・訂正をお願いしております。しかしながら、一旦郵便物が届かなくなりますと、なかなか新住所が判明することがなく数年が経過することとなります。その結果、住所不明者数が累積することとなります。もし、会報が届いていないという同窓生がお近くにいらっしゃいましたら、同窓会ホームページより変更届を登録していただくようお願いいたします。

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
藤田学園同窓会事務局
藤田学園同窓会名簿委員会
電話・ファックス：0562-93-5674
e-mail：dosokai@fujita-hu.ac.jp

獨創一理祈念館

各学校学部の”懐かしの品々”ガラスケース・ブースを学園50周年事業で設置することになりました。同窓生の皆様からの展示品の提供の募集を行っております。（制服・名札・学生手帳・教科書・実習ノート・体育祭など行事で使った物・など）詳しくは

獨創一理祈念館
TEL・FAX：0562-93-5674　までご連絡ください。

FUJITA FESTIVAL 2014

君が笑えば 僕も笑う
～君のハートにチェックイン～

本　部

模擬店

ミスコン

前夜祭

球技大会

第35回 藤田学園同窓会総会議事録

日　時：平成26年10月11日(土)16：30～17：20
場　所：ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋5F ローズボールⅠ
代議員：37名(内委任状6名)／50名、理事：16名／19名、監事1名／2名、陪席者65名
司　会：短期大学・長谷川

開会に先立ち、志半ばにして逝去された同窓生と藤田学園教職員に対し黙祷が捧げられた。

Ⅰ．開会の辞(専門学院・沖田)

Ⅱ．会長挨拶(医学部・近松)

Ⅲ．議長選出

近松会長が会長として発言の場が多く議長職に支障をきたす可能性があることから、定款16条に則り、10月1日に開催された理事会の承認により副会長の丸田氏が議長に選任された。

Ⅳ．代議員、監事、理事紹介

各部会から選出された代議員が紹介された(別紙代議員名簿)。

Ⅴ．議事

1．平成25年度事業報告

平成24年度において以下の事業が行われたことが報告された。

1)会員相互の親睦・扶助に関する事業

支部設立助成並びに部会助成に関する事業は該当なし

周年記念同窓会への支援事業として、

①衛生技術学科23回生の20周年記念同窓会
②衛生看護学科17回生の25周年記念同窓会
③衛生看護学科11回生の35周年記念同窓会
④衛生技術学科22回生の20周年記念同窓会
⑤医学部12回生の25周年記念同窓会
⑥衛生技術学科6回生の還暦記念同窓会

2)機関誌に関する事業

①昨年12月に「第33号あけぼの杉」を発行
②「第34号あけぼの杉」の編集

3)会員名簿に関する事業

①名簿作成引当金の積立
②Web調査・メンテナンス
③総会員数：27,878名(大学院卒業生を含む)、住所不明者：4,526名、物故者：257名

4)研修会、研究会に関する事業

①第8回医療系eラーニング全国交流会
②第13回日本アディクション看護学会学術大会
③第39回日本超音波検査学会学術集会
④第15回日本赤十字看護学会学術集会
⑤第51回日本リハビリテーション医学会学術集会
⑥第15回アジア太平洋外科組織保存学会、第13回日本組織移植学会合同学術集会
⑦平成26年度全国地域リハビリテーション合同研修会

5)奨学金貸与、研究費授与に関する事業

平成25年度は医学部5年生3名と3年生1名に、医療科学部3年生2名と1年生1名に、それぞれ月額6万円を貸与。卒業生4名より順調に返還。

6)藤田学園の後援に関する事業

①藤田学園創立50周年記念事業への寄附
②創立50周年同窓会記念事業基金への積立
③教育の支援として、いこいの広場コンサートの支援、学園祭協賛、入学記念品と卒業記念品の贈呈

7)その他の事業

①総会、懇親会および拡大理事会の開催
②個人情報漏洩保険賠償保険継続
③藤田学園同窓会Webページの修正
④愛知県私立大学同窓会連合会会長校として活動

2．平成25年度決算報告(医療科学部・原田)

平成25年度藤田学園同窓会収支計算書、藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書、藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金収支計算書について会計報告が行われた(別紙)。

3．平成25年度監査報告(医療科学部・村田)

平成25年度 藤田学園同窓会収支計算書及び財産目録、平成25年度藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書及び財産目録、平成25年度藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金収支計算書及び財産目録について医学部・内藤監事と医療科学部・村田監事より監査報告が行われた(別紙)。

採決の結果、以上の平成25年度の事業及び決算が満場一致で承認された。

4．平成26年度事業計画案(医療科学部・丸田)

以下のように事業計画が提案された。

1)会員相互の親睦・扶助に関する事業として

①支部会設立の支援
②同窓会部会の支援
③周年記念同窓会への支援

2)機関誌、会員名簿に関する事業として

①機関誌「第34号あけぼの杉」発行
②名簿作成引当金積立
③名簿管理メンテナンス

3)研修会、研究会に関する事業として学会並びに学術講

演会の支援
4)奨学金貸与、研究費授与に関する事業
①藤田学園同窓会奨学金基金の積立
②奨学金貸与
③研究費授与
5)藤田学園の後援に関する事業として
①藤田学園創立50周年記念事業への寄附
②創立50周年同窓会記念事業の実施と基金の終了
③教育の支援
いこいの広場コンサートの支援
学園祭協賛
入学記念品と卒業記念品の贈呈
国際交流などの支援
等々
6)その他の事業として
①拡大理事会、総会、懇親会の開催
②獨創一理基金の設立
③獨創一理ワークショップの企画・開催
④愛知県私立大学同窓会連合会会長校として活動
⑤個人情報漏洩保険賠償保険継続
⑥その他

5．平成26年度予算案(医療科学部・原田)

平成26年度藤田学園同窓会収支予算案、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算案、藤田学園創立50周年同窓会記念事業(獨創一理基金)収支予算案が提案された。

審議の結果、平成26年度の事業計画及び予算が満場一致で承認された。(平成26年度藤田学園同窓会収支予算、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算、獨創一理基金収支予算)(別紙)

6．藤田学園創立50周年同窓会記念事業計画(医学部・近松)

平成26年度事業として予算が承認された「藤田学園創立50周年同窓会記念事業」について、詳細な内容が説明され、会員全員の協力が要請された。

1)メインテーマ

藤田学園創立から50年が経過する節目の時期にあたり、お世話になった母校と恩師に感謝の意を捧げ、今日の同窓生の活躍をともに喜ぶ。

2)同窓会記念誌「Our Voices」の発刊

学園と共に発展の道のりを歩んだ同窓生の視点でこの50年間を総括し、母校との関わりにおいての重要な事実や資料を後世に伝承する。

主な目次
①巻頭言
②藤田学園同窓会の沿革
③歴代会長挨拶
④50年を振り返る座談会
⑤同窓生の動向調査
⑥キャンパス散策
⑦各同窓会活動報告
⑧同窓生のひとこと
⑨編集後記、謝辞

3)記念パーティ「藤田学園創立50周年感謝の集い」の開催

恩師に近況を報告し謝意を表す。同窓生同士の旧知を温め交流を深める。

平成26年10月11日(土)18：00～20：30

ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋7階「ザ・グランコート」にて開催

学校法人藤田学園と藤田学園同窓会が共催

7．質疑応答
特になし

8．議長解任

9．閉会の辞(医学部・松山)

引き続き18：00より7階ザ・グランコートにて、学校法人藤田学園と藤田学園同窓会が共催による記念パーティ「藤田学園創立50周年　感謝の集い」が盛大に開催された。

2015年度 入学試験スケジュール

藤田保健衛生大学 大学院

研究科名称	課程（定員）	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科	博士課程（68名）	前期募集	68名	9月16日（火）	9月26日（金）	本学
		後期募集		2月17日（火）	2月26日（木）	本学
保健学研究科	修士課程（30名）	第一次募集	30名	9月 1日（月）	9月 4日（木）	本学
		第二次募集		2月23日（月）	2月26日（木）	本学
	博士課程（4名）	第一次募集	4名	2月23日（月）	2月26日（木）	本学

藤田保健衛生大学

※高等学校長推薦

学部・学科名称（定員）		試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
医学部	医学科（115名）	高等学校長推薦	20名	11月 9日（日）	11月14日（金）	本学
		大学課程履修者自己推薦	上記の内若干名			
		一般入試（前期）	60名	学科：1月25日（日）	1月30日（金）	本学・東京・大阪・広島・福岡
				面接［希望する日］2月4日（水）又は2月5日（木）	2月10日（火）	本学
		一般入試（後期）	25名	学科：3月 1日（日）	3月 6日（金）	本学・東京
				面接：3月10日（火）	3月13日（金）	本学
		一般（後期・あいち県未来枠）	5名	一般入試（後期）と同じ		
		センター試験利用入試	5名	一次：センター試験	2月16日（月）	
				二次：2月20日（金）	2月27日（金）	本学
医療科学部	臨床検査学科（95名）	推薦入試※	15名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		一般前期入試	61名	2月 3日（火）	2月10日（火）	名古屋・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	10名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	7名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月23日（月）	
	看護学科（100名）	推薦入試※	30名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		指定校推薦	上記の内 約5名			
		社会人自己推薦	上記の内 約5名			
		一般前期入試	55名	2月 3日（火）	2月10日（火）	名古屋・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	7名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	5名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	3名	センター試験	3月23日（月）	
	放射線学科（50名）	推薦入試※	7名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		一般前期入試	30名	2月 3日（火）	2月10日（火）	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	5名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	5名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	3名	センター試験	3月23日（月）	
	リハビリテーション学科 理学療法専攻（45名）	推薦入試※	12名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		一般前期入試	23名	2月 3日（火）	2月10日（火）	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	4名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	4名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月23日（月）	
	リハビリテーション学科 作業療法専攻（35名）	推薦入試※	9名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		一般前期入試	18名	2月 3日（火）	2月10日（火）	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	3名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	3名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月23日（月）	
	臨床工学科（40名）	推薦入試※	8名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		一般前期入試	20名	2月 3日（火）	2月10日（火）	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	5名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	5名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月23日（月）	
	医療経営情報学科（33名）	推薦入試※	12名	11月15日（土）	11月20日（木）	本学
		一般前期入試	13名	2月 3日（火）	2月10日（火）	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	2名	3月 4日（水）	3月11日（水）	本学
		センター試験利用前期入試	4名	センター試験	2月13日（金）	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月23日（月）	

藤田保健衛生大学 看護専門学校

※高等学校長推薦

学科名称（定員）	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
看護科（40名）	推薦入試※	約15名	12月 6日（土）	12月10日（水）	本校
	一般入試	約25名	2月 7日（土）	2月12日（木）	本校

問い合わせ先　藤田保健衛生大学　広報部　〒470-1192　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
TEL　0562-93-2490　FAX　0562-93-4597　URL　http://www.fujita-hu.ac.jp/